

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言 「55年目と今後」

聖書宣教会理事長 **清水 昭三**

私たちの救い主イエス・キリストの御名を賛美申し上げます。

主の守りの中で聖書宣教会は 2013 年に 55 年目を迎えました。55 年目を振り返ると、創設時の舟喜順一師、羽鳥明師、ドナルド・ホーク師、またその後を引き継いでくださった後藤茂光師、舟喜信師たちはみな、かなりの高齢になられるまで重荷を負ってくださったことを覚えさせられます。80 才近くまでの責任の重い働きは苦労が大きかったらと思うされます。創設時の先生方から 3 代目、4 代目となる今後は、理事会の顔ぶれも、もっと若返りをして行ったほうが良いと思います。そのためには、諸教会や卒業生の方々に、理事が若手に交代していくことを理解していただく必要があります。世代が変われば、あり方も変えていく必要があるのです。これからは諸教会と卒業生が、みんなで支え、導かれたら理事や評議員として奉仕する心を持っていただきたいと思います。

聖書宣教会が持っている課題の一つは教師のことです。現在は専任教師 2 名、教師 7 名、講師 14 名で教育がなされていますが、教師の半数ほどは 65 才以上です。次の世代の教師を必要としています。若手の数名の卒業生が導かれて留学していますが、聖書宣教会の教師になると決まっている訳ではありません。献身者が少なくなっている中で、将来神学校の教師にと祈る若手は決して多くありません。また、教師の待遇も課題です。理事会で 2 年ほどかけて見直しを試みましたが、収入がどうしても裏付け出来ません。教師の方々の多くは私費で留学して聖書宣教会の教師となっておられるのですが、待遇は厳しいのが実状です。勿論、聖書宣教会の教師は誰ひとりそのことで不満を言うてはおられないのですが、理事会としては、いつも心苦しく思っております。

毎年 10 月ごろから気になるのが新入生の応募です。日本の教会の実状の現われであって、

聖書宣教会だけのことではないのですが、でもこの時期になると、新入生の応募数に敏感になります。これは日本のキリスト教会の将来に関わることで、現在の牧会者の姿勢の現われでもあります。牧会に携わっている私たちは、今後の日本の教会のことを祈る責任があります。全世界に出て行って、すべての造られた者に福音を宣べ伝える教会であるためには、信徒と共に、どうしても働き人が必要であるのです。ですから、牧会教会から献身者が起こされるように祈ることは、牧会者の任務であります。

年に 1 回は、礼拝で献身の勧めと招きをしてはどうでしょうか。

経済面について諸教会、諸姉妹に感謝申し上げます。ここ数年、経常費のほとんどは満たされています。教会献金として約 25 の教団教派、約 200 教会から、また個人献金として約 130 名ほどの姉妹から献金が届けられています。海外からの数件の献金がありますが、他はすべて日本の教会からの献金です。毎月の会計報告を聞くたびに、聖書宣教会が諸教会や卒業生の皆様、諸姉妹たちによって支えられていることを実感させられ、感謝しております。聖書宣教会を興し、導いてくださっている主が、これからも用いてくださることを信じますが、改めて、諸教会、同窓の皆様方、諸姉妹たちが、是非、この学び舎のために続けてお祈りくださることをお願いいたします。すべてを通して、主の栄光が顕わされますよう、お祈りいたします。

私ごとですが、2014 年 3 月末で次の理事長と交代することになりました。5 年の間、足りない者のためにお祈りくださり、ありがとうございました。新理事長のためにもお祈りをよろしくお願いいたします。



.....

年度ごとに卒業生が遣わされ、新入会生が加えられ、4年経つとその顔ぶれはすっかり入れ替わりますが、研修生活における大切なものは、連綿と受け継がれています。その一面を、卒業にあたって続く研修生に「のこすことば」と、1年生の入会してからの歩みの中でのあかしを通して読者の皆様にもお分かちします。

＜献身した者として＞

本科4年 鈴木俊見^{とし あき}

先日、ひとつの働きに区切りをつけ、新しいステージに進んでいこうとするある卒業生に会いました。その人の働きについてその同労者が語っていた言葉が印象的でした。「この人は、大変な中、困難な中を通らされた人だけれども、その度に『献身したのだから』と言ってそれを受け止め、主に従う道を選んで来た」という主旨の言葉でした。

神学生という立場は、主の召しを確信し、進み出した者としては献身した者ですが、具体的な働きに就いていないという点では、中途半端な立場と言えるかもしれません。

それゆえに、私自身の神学生時代の4年間を振り返っても言えることですが、献身した者としての生き方も中途半端なものになる危険があるように思います。

聖書宣教会本科での4年間の学びと訓練を終え、卒業するにあたり、残る研修生たちにのこしたいことばがあるとすれば、学びにおいても、奉仕においても、生活の一切のことにおいても、献身した者としてのあり方を追い求めてほしいということです。

神学校での訓練は、聖書や神学を学ぶということとともに、主に仕える者としてふさわしく整えられるということもあります。

それは、生活のあらゆる面でのことです。

聖書宣教会が全寮制であり、そこでの生活や人間関係も訓練の一部としていることを考えれば、そこでのあり方はおのずと献身した者としてのあり方が問われることになるでしょう。神学生と言っても、すべての人と良好な人間関係を築くことは容易なことではありません。学びにおいても困難があり、人との関係においても大変な中を通らされることが幾度もあります。しかしそこで求められるのは、難題を避けるのではなく、献身した者として、その課題に向き合っていくことだと思います。自戒も含めて、ご自分を無にし、仕える者の姿をとったキリストを模範とし、献身した者として学び、奉仕し、生活してほしいと願います。

＜神学生となって思うこと＞

聖書科1年 高宗昭雄

学ぶことが、学生時代よりもむしろ社会人になってからの方が、より熱心になるということは良く言われることです。社会人になってからの方が、学ぶことの必要性が増し、学ぶこと目的がはっきりするからでしょう。さらに、当然のこととして、学んだことの結果が即自分の仕事に反映されますから、学ぶことが興味深く、おもしろく感じられるものです。そういったこともあって、神学校で学ぶことにはそれなりの期待と楽しみがありました。知らないことを学ぶことへの期待、神学そのものを学ぶことへの喜びがありました。

しかし、実際は期待以上の学びであったと思います。いや、苦しみであるといった方がよいかも知れません。それは、召された者としての学びであったように思います。

「ただ、聖書のことを学びたい」、あるいは、「説教が出来る知識を得たい」という思いだけでは解決できない葛藤が生じてきます。

「なぜここまでして学び続けるのか、なぜここまでして研修生としての様々な訓練を受けていくのか」という問いかけは、常に私の傍らにありました。「もっと学ぶことだけに集中したい」、あるいは「学ぶにしてもこれ程のレベルの学びが私に必要なのか」という思いがありました。

しかし次第に、みことばを語る者として、召された者としての学ぶことへの責務を覚えるようになりました。もはや、自分のためにはない主の働きに与る者として相応しく整えられるための学びであることに気づかされていきました。年齢からくる知力、体力の衰えは如何ともし難いものがありますが、全ては主の栄光のため、主の力により学ぶ者でありたいと思います。幸いにして、素晴らしい先生・職員・研修生のみなさんの祈りと励ましがあります。そしてなによりもクラスメイトの主にある親しき交わりがあります。主の豊かな憐れみと祝福に感謝しつつ、これからの学びを続けて行きたいと思います。

2014年度 聖書宣教会講座案内

2014年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。11月8日(土)のオープンデイを始め、聖書講座、教会合唱講座はどなたでも参加できます(オープンデイ以外は要申込)。お待ちしております。

聖書講座 (金曜日 10:30~12:10)

前期:「伝道者の書」(松本 任弘)
4月11日~10月10日(15回)
於 ぶどうの樹キリスト教会(四ッ谷)
後期:(調整中)
11月~3月(15回)

第39回 夏期研修講座

期間:7月8日(火)~10日(木)
会場:奥多摩福音の家
対象:牧会者とその配偶者
テーマ:「信仰義認」
今年の夏期研修講座のテーマは「信仰義認」といたしました。最近、従来のルター的信仰義認の教理を見直し、信仰義認を新しい視点からとらえ直していく議論が盛んです。それとの対立ではなく、しかし、そのような背景を意識しつつ、ただ聖書そのものが信仰義認をどのように語っているのかを見て行きたいと思えます。信仰義認について誰が何を言っているかではなく、ひたすらみことばを釈義し、講解する中で「信仰義認」の理解が導かれていくならば本当に幸いです。
今年も旧約と新約の両方からこの教理にとって代表的な聖書箇所を取り上げて学んでいきます。また中日には、グループによるディスカッションも予定しています。卒業生や同業者との交わりと祈りのためにも、牧会からの休息のためにも、ご利用ください。みなさまのご参加をお待ちしています。

講師:聖書宣教会教師
詳細:別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

教会合唱講座 (火曜日 18:30~20:30)

前期:「賛美:会衆賛美、奏楽、聖歌隊とともに賛美する-6」
(飯島千雅子、遠藤かおる)
4月15日~10月14日(9回)
於 浜田山キリスト教会
後期:11月~3月(9回)

第30回 教会音楽夏期講習会

期間:7月24日(木)~26日(土)
会場:聖書宣教会(宿泊は近隣の「玉川苑」)
対象:聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方
「みことばと音楽」一礼拝と賛美(3)-
「神よ。私の心はゆるぎません。私は歌い、私のたましいもまた、ほめ歌を歌いましょう。」(詩篇108:1)
今年も教会音楽夏期講習会のお知らせをいたします。昨今の教会の賛美の実情を見ると、このような講習会の必要性を改めて覚えさせられます。パウロは「詩と賛美と霊の歌をもつて、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい」と勧めました。しかし、このような賛美はどれほどささげられているのでしょうか。賛美の実習を通して今年も主に賛美することを一緒に考え、学ぶことができると願っております。そして、ダビデのように揺るがない賛美を主にささげたいと思います。

講師:聖書宣教会教師・講師
詳細:別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

(このほか、聴講制度があります。詳細は事務局まで)

2014年度 聖書宣教会主要年間予定

2014年

4月8日(火) 入会式
4月11日(金) 前期開始
5月21日(水) 祈りの日
6月4日(水)~6月5日(木) 特別講義
6月7日(土) 教会音楽のひととき
6月27日(金)~7月3日(木) 集中講義
7月4日(金)~8月28日(木) 夏期調整期間
7月8日(火)~7月10日(木) 夏期研修講座
7月中旬~ キャラバン伝道
7月24日(木)~7月26日(土) 教会音楽夏期講習会
9月2日(火) 前期再開
10月16日(木) 前期終了
10月17日(金)~10月29日(水) 秋期調整期間

10月21日(火)~10月22日(水) リトリート
10月30日(木) 後期開始
11月8日(土) オープンデイ
11月20日(木) 祈りの日
11月29日(土) 賛美礼拝
12月13日(土)~1月6日(火) クリスマス調整期間

2015年

1月7日(水) 後期再開
2月11日(水) 信教の自由を守る日
2月16日(月) 入会試験
3月12日(木) 卒論発表会
3月14日(土) 後期終了
3月16日(月) 第56回卒業式

編集後記

二月は、二度にわたる大雪で主日に奉仕教会にたどり着けなかった研修生もあるほどでした。改めて、あらゆる意味で主の御守りの中で研修生活が成り立つこ

とを覚え、主への感謝を新たにしています。主が管んでおられるこの学舎を通して、なお大勢の召しの器たちが学びと訓練にあずかることを祈っています。(A)